

# Application Policy Infrastructure Controller バイザー ツールの概要

## 目次

[概要](#)

[クラス名または DN の取得](#)

[APIC GUI からの「Show Debug Info」の有効化](#)

[URL](#)

[API インспекタの表示](#)

[エンドポイントグループ \(EPG\) ファイル](#)

[クエリの実行](#)

[例 1 - DN](#)

[例 2 - クラス](#)

[Visore フィルタ](#)

[最後のクエリの URI の表示](#)

[最後の応答の表示](#)

[クラスオブジェクト名](#)

[ツールバー](#)

[左矢印](#)

[右矢印](#)

[統計情報](#)

[障害](#)

[状態](#)

## 概要

このドキュメントでは、Application Policy Infrastructure Controller ( APIC ) のオブジェクトストアブラウザである Visore について説明します。Visore を使用すると、ブラウザでいずれかの APIC または物理スイッチの IP アドレスにアクセスした場合、管理対象オブジェクト ( MO ) に対して直接クエリを実行できます。通常は、一般に HTTPS ( デフォルト ) である APIC を指しますが、設定により HTTP にすることもできます。

`https://<APIC or Switch IP ADDRESS>/visore.html`

それ以降、デバイスで有効なクレデンシャルを使用してログインするように求められます。

デフォルトでは、APIC Visore にログインすると、fabricNode クラスのすべての MO の検索結果が表示されます。

## クラス名または DN の取得

オブジェクトのクラス名 ( CN ) または識別名 ( DN ) を見つけるために使用できる方法が 4 つあります。

### APIC GUI からの「Show Debug Info」の有効化

[Welcome, <userid>] をクリックし、[Show Debug Info] を選択して、デバッグ情報を有効にします。

有効にしたら、GUI の付近をクリックすると、左下隅の画像内にテキストが表示されます。これを使用して、必要な情報を見つけてことができます。注意する必要があるのはテキストの後半の、「Current MO」から始まる部分です。これは、表示されている現在の MO です。クラス名は「model.def.fvAEPg」の後のセクションにあり、実際の名前は「model.def」の後です。この例では「fvAEPg」です。さらに、DN は角括弧 [ ] の中に表示されます。この例では、DN は「uni/tn-common/ap-default/epg-epg1」です。

### URL

GUI 内のリンクをクリックすると、URL が更新され、APIC GUI 内の位置が反映されます。これから、DN を取得できます。URL 内の縦棒 ( | ) の後のすべてが一意的 DN です。これはデバッグ方法によって取得されたものに一致することがわかります。

### API インспекタの表示

show API inspector コマンドを入力して、実行される API コールを確認します。

[Welcome, <userid>] をクリックし、[Show API Inspector] を選択して、API インспекタを有効にします。

この出力から、APIC に対して GUI により実行される未加工の API コールを確認します。使用される API URL 内で指定されているので、DN が「uni/tn-common/ap-default/epg-epg1」であることを判別できます。具体的には、「http://172.23.96.10/api/node/mo/uni/tn-common/ap-default/epg-epg1/」です。これを分解すると、APIC の IP アドレス、「api/node/」というディレクトリ構造、「class」の代わりに「MO」への呼出し、DN と続きます。

### エンドポイントグループ ( EPG ) ファイル

ポリシーを右クリックし、ポリシーを保存して、保存された XML ファイルを開きます。

最後に、選択したポリシーを右クリックすると、クラスおよび DN の情報を取得できます。[Save as] を選択して、ファイルのダウンロードに進みます。この例では、ファイルは XML ドキュメントとしてエクスポートされます。

ファイルがローカル ファイル システムにダウンロードされたら、任意のエディタで開きます。ファイルが開いたら、XML/JSON を確認して、クラスおよび DN を判別できます。

同じ例で、クラスが青で強調表示され、「fvAEPg」と等しいことを確認できます。さらに特定のテキスト「dn='uni/tn-common/ap-default/epg-epg1'」を確認できます。

## クエリの実行

前項の 4 つの方法のいずれかで確認した詳細情報を使用し、Visore で MO の詳細をさらに検証します。

クエリを実行するには、クラスまたは DN を入力します。

### 例 1 - DN

### 例 2 - クラス

このクラスを検索すると、Visore はこのクラス タイプのすべてのオブジェクトを返します。このシステムには、クラス タイプ「fvAEPg」のオブジェクトが 1615 個あることがわかります。

## Visore フィルタ

以前は、「fvAEPg」というクラス タイプで検索した場合、結果として 1615 個のオブジェクトが返されましたが、この検索を絞り込むことができます。たとえば、アプリケーション プロファイル「ap-default」内にあるオブジェクトのみを対象にする場合を考えます。これは DN に含まれているため、次のように DN でフィルタリングできます。

このアプリケーション プロファイルに追加の EPG がないため、単一の結果が返されます。また、「fvAEPg」に対する元の検索から、「epg」を含むすべての EPG を検索すると、リストを 873 個に絞り込むことができます。

## 最後のクエリの URI の表示

これは API を使用して再生する場合に便利です。Visore により実行される実際のコールを確認できます。API インスペクタを使用して同様の情報を見つけることができます。

## 最後の応答の表示

これは、返された最後の応答の未加工の XML 出力を提供します。これは、Visore ツールが返したもので、次の表出力形式でメッセージ化されています。他の種類の変換/変更は実行されません。

## クラス オブジェクト名

[Class Object Name] をクリックして、新しい検索を実行し、特定のクラス タイプのすべてのオブジェクトを返します。

[?] ( 疑問符 ) をクリックして、特定のクラス タイプのモデル プロパティの詳細を表示します。これは非常に詳しく、オブジェクト モデルについて理解するのに便利な方法です。このヘルプの上部に、このクラスの詳細情報にアクセスするリンクがあります。

## ツールバー

この項では、ツールバーの各アイコンの説明を、左から右へ説明します。

### 左矢印

左矢印は管理対象オブジェクトの親を表示する新しい検索を実行します。

### 右矢印

右矢印は管理対象オブジェクトの子を表示する新しい検索を実行します。

### 統計情報

オブジェクトでサポートされている場合、オブジェクトの追加リストをクエリの下に返し、関連付けられた統計情報を表示します。

### 障害

オブジェクトでサポートされている場合、オブジェクトで発生したエラーが表示されます。

### ヘルス

選択された DN の HealthScore 「healthInst」を現在のクエリの下に付加します。